

特別支援教育特集

今回の WEST では、特別支援教育の充実に向けた西部教育事務所の取組を紹介します。

校内研修への支援

学校からの要請により行った校内研修への支援の中から、2つを紹介します。

合理的配慮について

この夏休み、校内研修への支援の依頼が多かったのは合理的配慮についての内容です。

今年の4月から「障害者差別解消法」（正式名称「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」）が施行されています。これにより、国の行政機関や地方公共団体等（公立学校を含む）において、障害のある方から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合、合理的配慮を行うことが法的な義務となっています。学校で合理的配慮を行う場合、どのようなことに留意する必要があるのか、また、具体的な合理的配慮の内容についてこういったものが考えられるのかを紹介する研修を行いました。

配慮を要する子供の理解と対応について

教室を飛び出す、かっとなって暴力をふるう…、そんな教室の中の配慮を要する子供について、表に出てくる行動だけでなくその行動の前後に目を向けて、行動の背景・要因を考える研修を行いました。気になる行動を減らし、望ましい行動のサイクルをつくる方法を応用行動分析の理論をもとに紹介しました。



事務所主催の研修会

今年も開催しました！

特別支援学級における教育課程の編成に関する研修会

5月19日（武雄会場）、24日（唐津会場）「特別支援学級における教育課程の編成に関する研修会」を開催しました。特別支援学級では、在籍する児童生徒の特性や実態を踏まえ、その子に合った教育課程を編成する必要があります。そこで、年度当初に作成する「特別支援学級調査」の見直しを通して、特別支援学級の教育課程を編成する際の基本的な考え方を学んでいただくことを目的とした研修会を昨年度から実施しています。今年度は、武雄、唐津の両会場で90人を超える先生方に参加いただき、充実した研修会とすることができました。校内に数人しかいない特別支援学級の先生方にとって、このような研修や情報交換の機会は大切であることを改めて感じました。質問の時間が十分取れなかったことや開催の時期など課題も残りました。改善しながら、今後も先生方のニーズに応える研修を目指していきたいと思います。



<参加された先生方の声>

- ・ 小学校の各教科の教育課程と特別支援学校の各教科の教育課程について学習指導要領をよく見て計画を立てたいと考えています。
- ・ 今年度初めての特別支援学級担任になりましたが、グループでの話の中でベテランの先生方と交流でき、ヒントがいただけたのが収穫でした。
- ・ 昨年も受けて、今年と2回お話を聞いて良かったです。



「グループ協議の様子」



自立活動の時間って 何するの!?

「特別支援学級における教育課程の編成に関する研修会」での協議や質問の内容から、「自立活動」の指導について困っておられる先生方が多くいらっしゃることを感じました。そこで自立活動について簡単に紹介します。

1. 自立活動とは

特別支援学校の指導領域で、学習上または、生活上の困難の改善・克服を目的とした指導です。

知的障害、自閉症・情緒障害、病弱・身体虚弱、難聴、弱視…どの障害種の特別支援学級でも取り入れることができます。逆にいうと、障害があるために、通常の学級での指導では十分に指導の効果を上げることが難しい児童生徒が在籍している特別支援学級では、ほとんどの児童生徒に必要な指導といえます。自立活動は、特設の自立活動の時間（自立活動の時間における指導）だけでなく、学校の教育活動全体を通して適切に行うものです。

2. 自立活動の時間における指導の例

<p>例1 知的障害特別支援学級</p> <p>実態</p> <p>文字を書くときに体に力が入りすぎて、枠からはみ出す</p> <p>Aさん 中3</p> <p>目標</p> <p>力を入れすぎず、枠の中にも書けるようにする</p> <p>指導内容</p> <p>身体の力を緩める運動、指運動、クレヨンなどで書く活動に取り組む</p>	<p>例2 自閉症・情緒障害特別支援学級</p> <p>実態</p> <p>一方的に自分の考えを話し、相手の意見に耳を傾け、違う意見を聞き入れることが難しい</p> <p>Bさん 小5</p> <p>目標</p> <p>気持ちを落ち着かせたり切り替えたりできる方法を実践できるようにする</p> <p>指導内容</p> <p>具体的な場面を設定し、よりよい行動をロールプレイで練習後、日常生活で意識させる</p>	<p>例3 難聴学級</p> <p>実態</p> <p>発音が不明瞭で音と文字が結びついていない</p> <p>Cさん 小2</p> <p>目標</p> <p>視覚的、聴覚的な手がかりを通して発音の明瞭化を図る</p> <p>指導内容</p> <p>鏡を見ながら口の体操やストーリーを使ったサ行の練習で、文字数当てゲームなどに取り組む</p>
---	--	---

困難さの背景や目標を考える視点になるのが、下記の自立活動の内容です。これらの項目を単独で全てを指導するのではなく、その子にとって必要なものを選んで、相互に関連付け具体的な指導内容を設定します。

自立活動の内容 6区分26項目 ※例1では、太枠で示す項目を関連付けて設定しています。

1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
①生活のリズムや生活習慣の形成	①情緒の安定	①他者との関わりの基礎	①保有する感覚の活用	①姿勢と運動・動作の基本的技能	①コミュニケーションの基礎的能力
②病気の状態の理解と生活管理	②状況の理解と変化への対応	②他者の意図や感情の理解	②感覚や認知の特性への対応	②姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用	②言語の受容と表出
③身体各部の状態の理解と養護	③障害による学習上の困難を改善・克服する意欲	③自己の理解と行動の調整	③感覚の補助及び代行手段の活用	③日常生活に必要な基本動作	③言語の形成と活用
④健康状態の維持・改善		④集団への参加の基礎	④感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握	④身体の移動能力	④コミュニケーション手段の選択と活用
			⑤認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	⑤作業に必要な動作と円滑な遂行	⑤状況に応じたコミュニケーション